

貸借対照表

(平成23年3月31日現在)

資 産 の 部		負 債 及 び 純 資 産 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
	百万円		百万円
流 動 資 産	951	流 動 負 債	3,098
現金及び預金	153	短期借入金	670
未収運賃	216	1年以内に返済予定の長期借入金	1,564
未収金	212	未払金	374
貯蔵品	159	リ－ス債務	6
前払費用	14	資産除去債務	30
その他の流動資産	194	未払費用	67
		未払消費税等	34
固 定 資 産	44,189	未払法人税等	6
鉄道事業固定資産	42,862	預り連絡運賃	175
付帯事業固定資産	182	預り金	76
各事業関連固定資産	357	前受運賃	18
建設仮勘定	72	前受金	8
投資その他の資産	715	賞与引当金	64
関係会社株式	0	固 定 負 債	19,757
投資有価証券	360	長期借入金	7,842
長期貸付金	22	リ－ス債務	187
長期前払費用	54	資産除去債務	7
その他の投資等	278	長期未払金	1,581
		退職功労引当金	21
		繰延税金負債	10
		再評価に係る繰延税金負債	10,029
		その他の固定負債	76
		負債合計	22,855
		株 主 資 本	8,265
		資 本 金	90
		資 本 剰 余 金	6,834
		資 本 準 備 金	6,834
		利 益 剰 余 金	1,341
		その他利益剰余金	1,341
		繰越利益剰余金	1,341
		評価・換算差額等	14,019
		その他有価証券評価差額金	11
		土地再評価差額金	14,007
		純 資 産 合 計	22,285
資 産 合 計	45,140	負 債 及 び 純 資 産 合 計	45,140

損 益 計 算 書

(平成22年4月1日から平成23年3月31日まで)

科 目	金 額	
	百万円	百万円
鉄 道 事 業		
営 業 収 益	4,335	
営 業 費	4,144	
営 業 利 益		191
付 帯 事 業		
営 業 収 益	136	
営 業 費	135	
営 業 利 益		1
全 事 業 営 業 利 益		192
営 業 外 収 益		
受 取 利 息 ・ 配 当 金	10	
そ の 他 の 収 益	26	37
営 業 外 費 用		
支 払 利 息 ・ 割 引 料	177	
そ の 他 の 費 用	14	192
経 常 利 益		37
特 別 利 益		
固 定 資 産 売 却 益	18	
鉄 道 施 設 建 設 受 入 寄 付 金	106	125
特 別 損 失		
固 定 資 産 圧 縮 損	104	
資 産 除 去 債 務 適 用 損	32	136
税 引 前 当 期 純 利 益		26
法 人 税 、 住 民 税 及 び 事 業 税	6	
法 人 税 等 調 整 額	9	2
当 期 純 利 益		29

株主資本等変動計算書

(平成22年4月1日から平成23年3月31日まで)

(単位：百万円)

	株主資本						評価・換算差額等			純資産 合計
	資本金	資本剰余金		利益剰余金		株主資本 合計	その他 有価証券 評価差額 金	土地 再評価 差額金	評価・換 算差額等 合計	
		資本 準備金	資本 剰余金 合計	その他利 益剰余金 繰越利益 剰余金	利益 剰余金 合計					
平成22年3月31日残高	90	6,834	6,834	1,295	1,295	8,220	57	14,023	14,080	22,301
当期中の変動額										
当期純利益				29	29	29				29
土地再評価差額金取崩額				15	15	15				15
株主資本以外の項目 当期変動額（純額）							45	15	61	61
当期中の変動額合計	-	-	-	45	45	45	45	15	61	16
平成23年3月31日残高	90	6,834	6,834	1,341	1,341	8,265	11	14,007	14,019	22,285

個別注記表

(平成22年4月1日から平成23年3月31日まで)

1. 重要な会計方針に係る事項に関する注記

(1) 有価証券の評価基準及び評価方法

①子会社株式及び関連会社株式

移動平均法による原価法により評価しております。

②その他有価証券

時価のあるもの

期末日の市場価格等に基づく時価法により評価しております。

(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定しております。)

時価のないもの

移動平均法による原価法により評価しております。

(2) 棚卸資産の評価基準及び評価方法

貯蔵品

移動平均法による原価法により評価しております。

(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定しております。)

(3) 固定資産の減価償却の方法

①有形固定資産(リース資産を除く)

鉄道事業固定資産

定額法を採用しております。

ただし、構築物の一部については定額法による取替法を採用しております。

主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物 2年～41年

構築物 2年～60年

鉄道事業を除く固定資産

定率法を採用しております。

ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物(建物附属設備を除く)については定額法によっております。

主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物 7年～38年

構築物 10年～50年

取得価額10万円以上20万円未満の少額減価償却資産については、3年間で均等償却しております。

②無形固定資産(リース資産を除く)

定額法を採用しております。

なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づいております。

③リース資産

所有権移転ファイナンス・リース取引に係るリース資産

自己所有の固定資産に適用する減価償却方法と同一の方法を採用しております。

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

(4) 引当金の計上基準

①貸倒引当金

債権の貸倒による損失に備えるため、一般債権については、貸倒実績率による計算額を、貸倒懸念債権等

特定の債権については、個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

②賞与引当金

従業員賞与の支払に備えるため、支給見込額に基づき計上しております。

③退職功労引当金

従業員の退職時に支給する退職功労金の支出に備えるため、内規に基づく期末要支給額を計上しております。

(5) その他計算書類作成のための基本となる重要な事項

①ヘッジ会計の方法

ヘッジ会計の方法

金利スワップについては、すべて金利スワップの特例処理の要件を満たしているため、当該特例処理を採用しております。

ヘッジ手段とヘッジ対象

ヘッジ手段 金利スワップ

ヘッジ対象 借入金の利息

ヘッジ方針

当社の社内規程に基づき、借入金の金利変動リスクを回避する目的で金利スワップ取引を行っております。

ヘッジ有効性評価の方法

すべて特例処理によっているため、有効性の評価を省略しております。

②消費税等の会計処理方法

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

③工事負担金等の会計処理

当社は鉄道事業におけるトンネル改修工事等を行うに当たり、国土交通省および地方公共団体より工事費の一部として工事負担金等を受けております。これらの工事負担金等は、工事完成時に当該工事負担金等相当額を取得した固定資産の取得原価から直接減額して計上しております。

なお、損益計算書においては、工事負担金等受入額を特別利益に計上するとともに、固定資産の取得原価から直接減額した額を固定資産圧縮損として特別損失に計上しております。

(会計方針の変更)

(資産除去債務に関する会計基準)

当期より、「資産除去債務に関する会計基準」(企業会計基準第18号 平成20年3月31日)及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日)を適用しております。

これにより、営業利益及び経常利益が1百万円、税引前当期純利益が33百万円それぞれ減少しております。

2. 貸借対照表に関する注記

(1) 有形固定資産の減価償却累計額 20,236 百万円

(2) 事業用固定資産

有形固定資産	43,345	百万円
土 地	28,731	百万円
建 物	3,249	百万円
構 築 物	10,037	百万円
車 両	60	百万円
機 械 装 置	840	百万円
工具器具備品	240	百万円
リース資産	185	百万円
無形固定資産	56	百万円

「土地の再評価に関する法律」(平成10年3月31日公布法律第34号)及び「土地の再評価に関する法律の一部を改正する法律」(平成11年3月31日改正)に基づき、事業用の土地の再評価を行っております。再評価差額のうち税効果相当額を固定負債の部に「再評価に係る繰延税金負債」として、その他の金額を純資産の部に「土地再評価差額金」として計上しております。

・再評価の方法

鉄道事業固定資産・・・土地の再評価に関する法律施行令(平成10年3月31日公布政令第119号)第2条第5号に定める不動産鑑定士による鑑定評価により算出しております。

その他固定資産・・・同施行令同条第3号に定める地方税法(昭和25年法律第226号)第341条第10号の土地課税台帳に登録されている価格に合理的な調整を行って算出しております。

・再評価を行った年月日・・・平成12年3月31日

・再評価を行った土地の期末における時価と再評価後の帳簿価額との差額 △ 89 百万円

(3) 有形固定資産の圧縮記帳累計額 2,684 百万円

(4) 担保提供資産

(単位：百万円)

担保に供している資産			担保権に担保されている債務	
種 類	期末帳簿価額	担保権の種類	内 容	期末残高
土 地	25,787	鉄道財団抵当権	保証債務 (極度額)	1
建 物	1,758			
構 築 物	9,873			
車 両	60			
機 械 装 置	829			
工具器具備品	231			
合 計	38,540	合 計	1	1

(5) 保証債務等

(単位：百万円)

被 保 証 者	保証金額	被保証債務の内容
㈱伊豆急ケーブルネットワーク	33	銀行からの借入債務に対する保証
㈱伊豆急ケーブルネットワーク	35	銀行からの借入債務に対する保証予約
計	68	

(6) 関係会社に対する金銭債権及び金銭債務

短期金銭債権	176	百万円
短期金銭債務	13	百万円
長期金銭債権	195	百万円
長期金銭債務	185	百万円

3. 損益計算書に関する注記

関係会社との取引高

①営業取引による取引高の総額	25 百万円
②営業取引以外の取引による取引高の総額	18 百万円

4. 株主資本等変動計算書に関する注記

発行済株式の種類及び株式数に関する事項

(単位：株)

種 類	前期末株式数	当期増加株式数	当期減少株式数	当期末株式数	摘 要
発行済株式					
普通株式	11,296,313	—	—	11,296,313	
合 計	11,296,313	—	—	11,296,313	

5. 税効果会計に関する注記

繰延税金資産及び繰延税金負債の主な発生原因別内訳

繰延税金資産

繰越欠損金	803 百万円
長期未払金	648 百万円
減価償却費	186 百万円
未収運賃	30 百万円
その他	101 百万円
繰延税金資産小計	1,771 百万円
評価性引当額	△ 1,771 百万円
繰延税金資産合計	— 百万円

繰延税金負債

土地再評価差額金	10,029 百万円
その他有価証券評価差額金	8 百万円
資産除去債務	1 百万円
繰延税金負債合計	10,039 百万円
繰延税金資産（負債）の純額	△ 10,039 百万円

6. 金融商品に関する注記

(1) 金融商品の状況に関する事項

当社は、資金運用については短期的な預金等に限定し、銀行等金融機関からの借入により資金を調達しております。

投資有価証券は株式であり、上場株式については四半期ごとに時価の把握を行っております。

借入金の使途は運転資金（主として短期）および設備投資資金（長期）であり、一部の長期借入金の金利変動リスクに対して金利スワップ取引を実施して支払利息の固定化を実施しております。なお、デリバティブは社内規程に従い、実需の範囲で行うこととしております。

(2) 金融商品の時価等に関する事項

平成22年3月31日（当期の決算日）における貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。

(単位：百万円)

	貸借対照表 計上額(*)	時価(*)	差額
①投資有価証券			
その他有価証券	344	344	—
②長期借入金	(9,407)	(9,630)	△ 223
③デリバティブ取引	—	—	—

(*) 負債に計上されているものについては、()で示しております。

(注1) 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

①投資有価証券

これらの時価について、株式は取引所の価格によっております。

②長期借入金（1年以内に返済予定の長期借入金を含む）

長期借入金の時価については、元利金の合計額を同様の新規借入を行った場合に想定される利率で割り引いて算定する方法によっております。変動金利による長期借入金は金利スワップの特例処理の対象とされており（下記③参照）、当該金利スワップと一体として処理された元利金の合計額を、同様の借入を行った場合に適用される合理的に見積られる利率で割り引いて算定する方法によっております。

③デリバティブ取引

金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジ対象とされている長期借入金と一体として処理されているため、その時価は、当該長期借入金の時価に含めて記載しております（上記②参照）。

(注2) 非上場株式（貸借対照表計上額15百万円）は、市場価格がなく、かつ将来キャッシュ・フローを見積ることなどができず、時価を把握することが極めて困難と認められるため、「①投資有価証券 その他有価証券」には含めておりません。

7. 賃貸等不動産に関する注記

賃貸等不動産の総額に重要性が乏しいため記載を省略しております。

8. 関連当事者との取引に関する注記

(単位：百万円)

属性	会社等の名称	議決権等の所有 (被所有)割合	関係内容		取引の内容	取引金額	科目	期末残高
			役員の兼任等	事業上の関係				
親会社の子会社	東急ファイナンスアンドアカウンティング(株)	-	兼任2人	資金の預入・借入等※	支払利息 CMS利用料	20	短期借入金 未払費用	670 0

※東急ファイナンスアンドアカウンティング(株)が、東急グループ各社に提供しているキャッシュマネジメントシステムを利用しており、余剰資金の預入・運転資金の調達等を行っております。

(限度枠 預入1,000百万円、借入2,000百万円)

なお、金利は市場金利を勘案して合理的に決定されております。

9. 1株当たり情報に関する注記

- (1) 1株当たり純資産額 1,972円80銭
- (2) 1株当たり当期純利益 2円63銭

10. 重要な後発事象に関する注記

該当事項ありません。